

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	馬場どろんこ保育園	種別：	認可保育園	
代表者氏名：	園長 田中 三樹子	定員（利用人数）：	70（67）名	
所在地：	230-0076 神奈川県横浜市鶴見区馬場1-11-5			
TEL：	045-633-7435	ホームページ：	https://www.doronko.jp/facilities/doronko-baba/	
【施設・事業所の概要】				
開設年月日	2019年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人どろんこ会			
職員数	常勤職員：	15名	非常勤職員：	5名
専門職員	保育士	17名	栄養士	2名
	看護師	0名	調理員	0名
	保育補助	0名	事務	1名
施設・設備の概要	居室数	保育室4室、調理室、事務室、相談室、園庭	設備等	駐輪場

③理念・基本方針

【子育て理念】

にんげん力。育てます。

「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・野外体験を提案実践し“自分で考え、行動する思考”を育みます。

【子育て目標】

1. センス・オブ・ワンダー

子どもが“自然の中での体験”を通して、ものの性質や身近な事象・生命の尊さ・食材や食の循環に気付くことができるように多くの実体験の機会を提供し、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。

2. 人対人コミュニケーション

園外では「すれ違ったすべての人」と挨拶を交わすことを園の約束としています。銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育など地域交流を実施し、一人でも多くの人と挨拶を交わし、一つでも多くの仕事を目にする機会を用意し、“感じたこと・考えたこと”を言葉で、ジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。

④施設・事業所の特徴的な取組

保育者の役割を「変容していく社会に柔軟に対応し、社会の一員として生きていく力を育てること」と園の事業計画に掲げ、園では子どもの非認知能力を育てることを目的に異年齢保育と戸外活動を積極的に行っています。3～5歳児だけでなく、0歳児から5歳児までの子どもが活動をともしする機会を多く作っています。さまざまな年齢の子どもがいっしょに生活することで、お互いを高め合い、他者を認める気持ちを育てています。また、だれと、どこで、何をして過ごすかなど、自分のやりたいことを子どもたち自身が表現できるよう、年齢に応じて保育士が支援しています。戸外活動では、発達に合わせて少しずつ距離を延ばす長距離散歩を活動の中心にして、全年齢の子どもたちが、ほぼ毎朝9時ごろには散歩に出発しています。4、5歳児は年度の後半には片道1時間以上の散歩にも出かけます。散歩先の公園では、豊かな自然と触れ合いながら、子どもたちは存分に頭と体を使って体系化されていない自由な遊びを自分たちで見つけています。

開園3年目を迎え、園の保護者や地域とのつながりをより深めるよう取り組んでいます。コロナ禍の現在は、保護者向けにはアプリなどを通して園の様子を発信するほか、園の掲示物を密にならずに見られる工夫をしています。地域に向けては園の活動を掲載した「ばばどろんこしんぶん」を発行し、近隣の家庭に配付したり町内会の掲示板に掲示させてもらったりしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年6月28日（契約日）～ 2022年3月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆子どもの育ってほしい姿を明確にして、全職員がその実現に努めています

子どもの育ってほしい姿について、法人のホームページや園のしおりなど、さまざまな媒体で明示しています。保育所保育指針に示された「5領域」「10の姿」などを踏まえた「どろんこ会が育てる6つの力」をはぐくむために、どのような保育を展開すれば良いかを全職員が考え、会議や園内研修でも検討しています。例えば、子どもたち自身がやりたいことを見つけ、それを表現できるよう子どもの目線や意欲の向かう先に注意を払うよう努めています。また、戸外遊びを大切に、散歩先にあえて遊具などが少ない場所を選び、子どもたちが自分で遊びを見つけたり、ルールのある遊びで友だち同士のかかわりを大切にしたりする機会を作っています。

◆保育の質を向上するためのさまざまな取組が実践されています

毎月の園内研修では、職員が交代で講師を務め、人に学びを伝えることで自分自身の理解を深めています。今年度は、改めて保育理念がなぜ重要なのかを学ぶ「そもそも理念てなに」のほか、「子どもの理解」「保育記録について」などさまざまなテーマを取り上げています。また、法人系列の他園といっしょに行う勉強会「保育の質を上げる会議」には園の代表者を決めて参加します。系列園の各園がテーマごとに講座を主催する「子育てスキル講座」は法人内だけでなく、園の利用者や地域の方にも参加を呼びかけます。今年度は「親子でクッキング」ほか3つの講座を主催しました。こうした活動に職員が主体的に取り組み、保育の質の向上に努めています。

◇改善を求められる点

◆当園としての体制や取組について、改めて明文化されることを期待します

園の運営と保育に必要なマニュアル類、記録様式、チェックリストなどが整備されています。また、記録や情報の伝達などには、パソコンやスマートフォンを利用した効率化が進められています。こうした仕組みは法人によって用意されていますが、園としても全職員が内容と活用方法の理解に努めて、積極的かつ有効に利用しています。今後はさらに、当園としてこの仕組みを利用するうえでの具体的な補足事項を明文化したり、園を取り巻く独自の状況を踏まえた内容を法人と連携しながら追記したりされることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

法人理念である「にんげん力」獲得を目指し、子どもが自分で考え行動する思考を育むため、遊びや散歩先、給食の量など様々な場面で、子どもが自身で考え選択する機会を数多く提供した。また、人間力は子ども同士の関わり合いの中で、子どもの主体的な活動を通じてこそ育つということを、すべてのスタッフが共通認識として保育を行い、応答的な関わりを心掛け見守るようにした。また子どもが夢中になって遊ぶことが出来るよう、環境作りにも留意し、設備環境だけでなく、時間的環境や人的環境など、様々な側面から子どもの育ちを考えた環境作りに留意した。そして同時に、実体験や戸外活動の機会を充実させ、子どもの興味関心を大切にしながら、子どもの目線で保育者も一緒に楽しみ、大人がモデルとなり、背中をみせる保育を実践した。

保育の質向上には、保育者のにんげん力の向上が不可欠であるため、人材育成に注力し、アクティブラーニングを中心とした学びの環境を追及した。それによってスタッフ同士の同僚性が徐々に発揮され、それぞれが保育者として、また人として成長出来ていると感じる。

今後当園が地域の親子が集うコミュニティの拠点となるよう、移動動物園や園庭活動等をブログや「馬場どろんこ新聞」に掲載し、園のリアルな活動を積極的に地域に開示していくことで、子育ての拠点としての役割を担えるよう活動を進めていきたい。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり